

健康講座

認知機能が低下する、けれど治る病気

岩倉市医師会 丹羽 克司

岩倉市の皆さん、こんにちわ。

まだまだ新型コロナウイルスが大変な時なので、新型コロナウイルスの話をすることも考えましたが、最近1年間で2回このコラムに新型コロナウイルスの話が出ていますので、今回は他の病気のお話をさせていただきます。

認知機能が低下してきた時、アルツハイマー型認知症やレビー小体型認知症が頭に浮かぶことは多いと思います。実際、認知症のかなりの部分をこれらの病気が占めます。そして、これらの病気は進行を遅らせることは出来ても、治すことは出来ません。しかしながら、認知機能の低下をもたらしても、改善する可能性のある病態がいくつかあります。

まずは画像検査で見つかる病気です。一つは慢性硬膜下血腫という病気です。これは転倒などをしたときに、脳の表面が頭蓋骨にぶつかるそこから少しずつ出血し、それが溜まって大きくなると、脳を押し、異常が現れる病気です。通常は、四肢の動きが悪くなったり（普通は片方です）、呂律が回らなくなったといった症状が出ますが、たまたま認知機能の低下が現れます。特徴としては、認知機能の低下が急に進む傾向があることです。先日までは、普通だったのに、急に物忘れが目立ってきた場合は、この病気を考えましょう。症状は、転倒してから1〜2カ月、長くと半年後ぐらいに出現するところがあります。転んだときに直接頭を打たなくても起きることがあります。また、四肢に麻痺や呂律難などは出ず、認知機能の低下しか出ないこともあり、ですので、気を付けてください。

もう一つは、正常圧水頭症という病気です。これは脳の中の脳室という部分に溜まっている液体が何らかの理由で上手く出ていかず、脳室が腫れてきて、脳の機能に異常を来す病気です。特徴的な症状は、歩行障害、認知機能の低下、尿失禁ですが、これら3つが揃うことは珍しいと言われています。歩行はつま先を広げて小刻みに歩く歩き方で、ペンギンのように歩くことと表現され、かなり特徴的な歩き方になります。この病気は緩やかに現れることもあり、アルツハイマーやレビーと区別がつけにくいこともあります。物忘れもあるけれど、歩き方がおかしい時には、この病気も考えましょう。

次に採血で分かる病気です。甲状腺は体の元気を上げるホルモンを作っている臓器ですが、この機能が低下する病気Ⅱ甲状腺機能低下症でも、認知機能の低下が出現することがあります。またビタミンB12が不足することによって認知機能の低下が出現することもあります。これは採血で分かりますし、薬で補充することによって改善が得られますので、認知機能の低下を認める時は、これらのチェックも考えましょう。

いずれにしても、最近おかしいな、もしかしたら認知症かもしれないな、と思った時には、まず医師に相談しましょう。